

9th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入選作品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛 富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	初冬の霧の伊豆沼	遠 藤 正 弘	本吉郡志津川町
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	内沼夕暮	斉 藤 幸 吉	宮城県仙台市
金 賞 (若柳町長賞)	水上の舞台	千 葉 学	宮城県古川市
金 賞 (築館町長賞)	夕闇に集う	佐 藤 文 昭	登米郡迫町
金 賞 (迫町長賞)	夕映えの頃	根 本 弘 美	黒川郡富谷町
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	「夕日を浴びて」	岩 崎 浩 幸	遠田郡小牛田町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	朝の飛び立ち	大 金 由 夫	宮城県古川市
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	内沼夕景	佐 藤 俊 吉	宮城県塩釜市
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	羽を早く治してネ	鈴 木 正 一	宮城県仙台市
銅 賞 (河北新報社賞)	沼の情景	藤 原 靖 也	宮城県仙台市
銅 賞 (読売新聞社賞)	伊豆沼夕照	堀 田 文 夫	本吉郡津山町
銅 賞 (朝日新聞社賞)	沼の春	天 野 宗 謙	宮城県仙台市
銅 賞 (毎日新聞社賞)	朝のひととき	千 田 久	岩手県水沢市
銅 賞 (岩手日報社賞)	雁 行	伊 藤 利 喜 雄	富山県入善町
入 選	なかよし	千 葉 稔	登米郡豊里町
入 選	舞踊るスワン	林 茂	宮城県仙台市
入 選	鳥になりたーい	小 林 幸 枝	牡鹿郡女川町
入 選	黎明の雁行	中 畑 俊 雄	宮城県仙台市
入 選	過ぎ去りし日々	丹 野 亮 一	宮城県仙台市
入 選	瞬 彩	菅 原 敏 彦	黒川郡大和町

総 評

伊豆沼・内沼写真コンテストも回を重ねてまいりました。ラムサール条約の登録湿地として、伊豆沼・内沼の価値は貴重です。遠くロシアから飛来する野鳥たちにとって、この湖沼は命の湖です。ガン、カモ、ハクチョウの大群舞。ダイサギやアオサギの優雅な姿。カイツブリの水中遊泳、カッコウ、ヨシキリの姿など、日本列島の中でも特筆すべき野鳥の楽園なのです。夏期には、湖面を覆い尽くすハスの花など、四季を巡る沼の姿は様々に変容して、人間を楽しませてくれています。このような豊かな大自然を、被写体として選び、捉えていくことができるのは、まさに写真の力です。

寄せられた作品は、皆さんの力作ばかりです。今年は、応募作品の水準が揃ってきたように思います。自分が撮った作品が、沼の自然の営みを伝え、貴重な資源の保護の役割を担う。そして多くの人々に、自然の優しさ大きさを感じさせていく。これは、そんな意味をもったコンテストだと思います。引き続き、命の沼の記録を続けて欲しいと思います。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、「桜」をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会理事、自然科学写真協会理事、日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員、日本写真芸術専門学校・現代写真研究所の各講師。

最優秀賞（宮城県知事賞）
「初冬の霧の伊豆沼」
遠藤 正弘



【評】野鳥の群舞、日の出、夕日の太陽、ハスの花ばかりが伊豆沼の魅力ではありません。この作品は、とても静かでとても優しく、とても美しい伊豆沼の姿を伝えてくれています。明け方か、あるいは夕方か。薄明かりの沼に、静かにいけすが漂っています。そして空には月がほのかに輝いて、まさに日本の沼の情感が引き出されているのです。

優秀賞（宮城県
伊豆沼・内沼環境
保全財団理事長賞）

「内沼夕暮」
齊藤 幸吉

【評】彼方の山に、太陽が沈もうとしています。ハクチョウやカモが群れていて、なにやら騒がしい岸辺の様子を、ダイナミックに捉えています。特に、中央上部ではばたくカモの姿が、画面に活力を与えています。日暮れの一瞬、騒がしい鳥たちの鳴き声が聞こえてくるようです。





金賞（若柳町長賞）
「水上の舞台」
千葉 学

【評】 東の空を真っ赤に染めて、太陽が昇って来ている。目覚めた鳥たちが羽ばたき、湖面を覆うように飛翔していきます。これぞ伊豆沼・内沼のあるべき姿です。横長にひろがった鳥の群れ、それぞれに動きを感じます。そして、輝く湖面と太陽、紅い空とが印象的な作品です。

金賞（築館町長賞）
「夕闇に集う」
佐藤 文昭

【評】 暮れなずむ岸边に群れをなすサギたちの美しい姿。飛翔しているものもあり、じっと佇んでいる鳥もある。無数のサギが一か所に集っていて美しい。これぞ、野鳥のコロニーと思わせる作品です。飛翔している鳥がちょっとブレすぎてしまったのが難ですが、こんな様子は写真ならではの面白さ。



金賞（迫町長賞）
「夕映えの頃」
根本 弘美



【評】 大きく羽を広げて飛び立つハクチョウの姿を、的確なシャッターチャンスで捉えています。逆光のライティングで、羽のラインが浮かび上がっていること。夕方の色合いがムードを盛り上げていることなど、今までになかった作品となっています。



銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「夕日を浴びて」 岩崎 浩幸

【評】 逆光ライティングで、湖面のハクチョウたちをシルエットで処理しています。前景から遠景までの状況を取り入れて、奥行きのある構図を生み出し、羽ばたく鳥で動きを抽出しました。

銀賞（築館町観光協会会長賞）
「朝の飛び立ち」 大金 由夫

【評】 早朝の撮影であったため、大空の雲がブルートーンに描写されて面白い効果ができました。二羽の白鳥が大空を飛んでいきますが、シャッタースピードが遅く、画面がブレて動感が出ました。



銀賞（迫町観光協会会長賞）
「内沼夕景」 佐藤 俊吉

【評】 夕照に染まった湖面の色調がとても美しい。そこに佇む二羽のサギの姿が孤独で、静かななかに、情感がわき出てきます。空間処理が巧みで、暮れなずむ内沼の雰囲気を引き出しています。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「羽を早く治してネ」 鈴木 正一

【評】 傷ついで沼に留まったハクチョウと、人間との結びつきを引き出している作品です。幼児の頃から、自然の姿を観察することのできる内沼の、社会的役割を捉えている作品です。



銅賞（河北新報社賞）
「沼の情景」

藤原 靖也



【評】水生植物が、沼一面を覆い尽くしています。ヒシ採りの小舟が、この大きさを表しています。もう少し緑が鮮やかに描写されていれば、さらに上位にランクされた作品です。

銅賞（読売新聞社賞）
「伊豆沼夕照」

堀田 文夫



【評】伊豆沼の夕景を、中判カメラを使ってデリケートに表現しています。太陽の姿と、湖面に照りかえっている光の帯がとても美しい。いい情景ですが、ちょっと構図的に安定しすぎています。

銅賞（朝日新聞社賞）
「沼の春」

天野 宗謙



【評】桜が満開です。彼方の山は、まだ残雪をたたえています。四月というのにカラッと晴れた青空が気持ちがいい。伊豆沼・内沼のこんな風景を、もっともっと撮って欲しいと思います。

銅賞（毎日新聞社賞）
「朝のひととき」

千田 久



【評】破れた氷の隙間を一列で泳いでいくハクチョウ艦隊。そんな連続性が面白い効果をあげています。プリントの段階で画面の左右が切られていて、ちょっと窮屈な感じがする点が惜しい。

銅賞（岩手日報社賞）
「雁行」

伊藤 利喜雄



【評】夕闇迫る大空を、埋め尽くすように飛び交うガンの群れ。これぞまさしく、自然のドラマです。おりしも東の空に、満月が昇ってこようとしています。いい時期を計算して捉えた作品です。

入選
「なかよし」

千葉 稔



【評】二羽のカモが顔を突き合わせて仲睦まじい。そんなチャンスをつ捉えて成功しています。画面がやや暗い点が惜しい。

入選
「舞踊るスワン」

林 茂



【評】岸辺でハクチョウたちの舞踏会が開かれています。チャイコフスキーの「白鳥の湖」を連想させるような写真を撮って下さい。

入選
「鳥になりたーい」

小林 幸枝



【評】飛び交う野鳥とはしゃぐ子供。眼前にこんなに鳥が群舞していたらさぞかし感激し、嬉しかったにちがいない。表情が見えないのが惜しい作品。

入選
「黎明の雁行」

中畑 俊雄



【評】これぞ伊豆沼・内沼の姿。大空を覆い尽くす渡り鳥の壮観な風景です。上空に張り詰めた雲のトーンも、雰囲気盛り上げています。

入選
「過ぎ去りし日々」

丹野 亮一



【評】文学的なタイトルが素晴らしい。夏の暑き季節に活躍した舟も岸辺に繋がれて、静かに活躍する時を待っている。そんな雰囲気が伝わってきます。

入選
「瞬彩」

菅原 敏彦



【評】湖面がこんなに美しく輝いたのは、おそらくほんの一瞬であったと思います。ちょっとピントが甘く、シャープに撮っていたら上位に行った作品です。